

コロナに思う、再び(2月 15日~3月3日)

テレビ東京7チャンネル・WBS(23:00~23:58)

(T. K. 要約)

2月 15日(月) 中西宏明・経団連会長 #1



経団連・新成長戦略

1. サステナブルな資本主義
2. 2030年の未来像
3. 2030年へのアクション
—成長戦略—
 1. DXを通じた新たな成長
 2. 働き方の改革
 3. 地方創成
 4. 国際経済秩序の再構築
 5. グリーン成長の実現

緊急事態宣言は経済活動にとって大変厳しい。人に会うことを避けて活動しなければならない。単純にテレワークにしたからと言って解決はしない。日本企業が再起するためには経済構造が変わったということ認識すること。スピード感をもって構造改革を、4・5年かかることと思うことこの1年でやらねばならない。この状況の中で経団連は新成長戦略を打ち出した。

新成長戦力は従来の延長線上で考えたのではダメ。一番重要なのは働く人のマインドセット(心理状態)。職業観が大きく変わってくる。単純に報酬や地位を求める職業感ではなく、社会と関わり、その中で、役立ち、働き甲斐を求めることになる。

経団連は大企業の集団で企業の利益優先する団体から抜け出て、日本の経済界を代表できる意見や方向性を出していくことが重要なミッションだと思う。

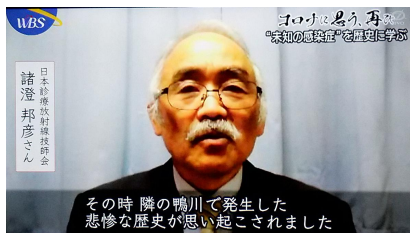
KIPAメールマガジンの2月号にもご紹介しました。再度ご紹介します。

***経団連の新成長戦略の詳細は下記のURLをクリックすると診れます。**

経団連: 新成長戦略(2020-11-17)(keidanren.or.jp)

http://www.keidanren.or.jp/policy/2020/108_honbun.html

2月22日(月) 諸澄邦彦・日本診療放射線技士 #2



医療史跡探訪から学ぶ

福島第一原発事故でも差別的な扱いがあった。福島から避難してきた子供が砂場で遊んでいると、「放射能がうつるから遊ぶな」といじめられて、福島へ戻るということが起きた。



「未知の感染症」を歴史から学ぶ

144年前、明治10年(1877年)11月、千葉県鴨川でコレラが発生。医者沼野玄昌は死者の火葬や井戸の消毒を行った。患者を寺に隔離し、患者の家を石灰で消毒しました。「玄昌が井戸に毒を入れた」というわさが拡がり、それを盲信した住民が玄昌を竹やりや鎌で襲い、殺害して、遺体を加茂川に投げ込むという事件がおきました。事件後、遺体が発見された加茂川沿いの汐留松原に、事件の加害者をはじめとする住民が、7回忌の供養碑を建立しました。

現在のコロナに対し不安を覚えているのは江戸時代から続くコレラに対する恐怖と同じで目に見えぬものに対する不安と同じでないか。歴史は過去の出来事ですが、背景を見ることは現代に何かを投げかけていると思います。医療現場で人命を救うために自分の身を危険にさらし活動している医師・看護師の子供が通う幼稚園や保育園から登園自粛をもとめられる事態など信じがたい不当な扱いを受けたことも報道されています。

正しい知識を持って、正しく恐れることは感染症にかんしても必要だと思っています。

3月 1日(月) 會田悦久・内科医
#3



神奈川モデルとなった
湘南鎌倉総合病院COVID-19病棟
湘南鎌倉総合病院は”絶対ことわらない”救命救急で有名
神奈川県が建設、運営を委託した。
新型コロナセンコン病棟病床数180、中等症患者を合計
合計1000人以上受け入れた。
20年4月に、敷地は武田医薬品工業のイノベーションセンター
の土地を無償で借り上げ仮設病棟を建設した。

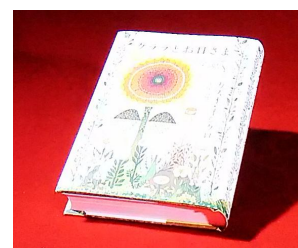
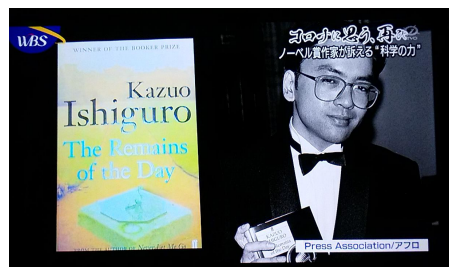


院長はコロナだろうが、救急患者だろうがすべて受け入れる
というポリシーを持っている。看護師や医師はその精神を
すごく感じます。



神奈川県は第一波の時、ダイヤモンド・プリンセス号の経験があり、
患者を全国に分散させた経緯があった。神奈川県に関しては
県内で解決しなければならないという意識が働いた。
それが病院の理念と一致したのだと思う。
神奈川県モデルがあり、受け入れOKとなった場合、その
病院と直接やり取りして転院を決定する
コロナの受け入れ病院同志では連携を深めることが出来て
いるが、コロナを診ている病院と診ていない病院との溝は
ギャップが相当激しい。今後、ここを埋めていかないと上手
いかないのでないかと思う。実は入院よりも圧倒的に退院
した人の対応が困難。一度、コロナにかかった患者を受け
入れたくないという施設はまだ多い。
全国どこでも、横の連携でスムーズなシームレスな入退院
ができる体制を各自治体で構築していくことが必要と思う。

3月 2日(火) カズオ・イシグロ・日系英国人
#4 2017年 ノーベル文学賞受賞



カズオ・イシグロ氏の最新著作
「クララとお日さま」出版: 早川書房

最近のニュースから感じることは、様々な国が安心と安全の
ために作ったものが実はとても脆弱だったと思うこと。
文学で出来ることは”ストーリー”が一番で大切なことと思う。
ストーリーが本から語られようと、テレビから語られようと、
映像からであろうと、特に差はないと思う。その中身、
ストーリーが大切だと思う。単に、現状からの逃避、回避する
ためではなく、何か意味のあることを聞きたい、人間にとって
”ストーリー”はなんの意味があるのか、怒りとは何か、優しさ
とは何か。愛情とは何かを考える”ストーリー”
こんな状況だからこそ、”ストーリー”が必要だと思う。

コロナ危機で、私たちは科学に向き合うようになったと思う。
科学は私たちにどうやってコロナと闘うかを教え、ワクチンの
製造も教えてくれた。こうした科学者たちの英知の結晶が
なかったらと思うと、今頃どうなっているだろうかとぞっとする。
科学者たちへの尊敬の念は劇的に膨らみました。
私たち全員が”科学に基づいた思考”に適応しなくていけない
と思います。科学者たちの素晴らしい結果を目にしていると
同時に私たちはフェイクニュースがある時代を生きていて、
人々は思い込みによって、何を信じてもいいと思っている。
これは完全に科学的思考からかけ離れている。一方で証拠
(エビデンス)といわれる物だけを信じる人もいる。これは
異なる2つの世界の見方の衝突だと考えている。証拠に
基づき真実を見る手法が大事だという私たちへの警告だと思う。

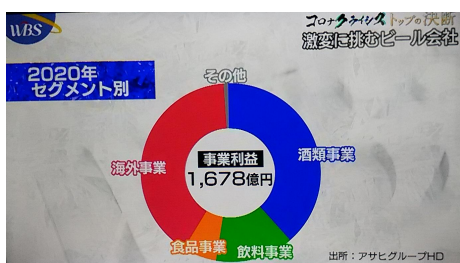
トップの決断

3月 18日(木) 小路明善・アサヒG・HD社長
#18 ヨーロッパ、オーストラリアなど
海外企業を2兆円以上かけて買収



2019年シェア首位はキリンに
3月25日、海外事業に詳しい
勝木敦志専務が海外展開を
進めるため社長に就任し、
小路社長は会長に就任予定

2020年
種類事業、海外事業、食品事業、
飲料j偉業で
事業利益 1,678億円



2016年に社長に就任してから、ボリューム競争(シェア)をやめることを提唱してきた。商品価値での競争を進める。飲むこと以外の楽しみは何かを追求し、缶を開けることとか、泡の出ることの楽しみを提供して行こうと缶ビールを発売した。変化対応力よりも変化想像力が重要だと感じた。アルコール度数0.5%のビールテイスト飲料を30日に発売予定。多様化する家飲み需要に対応する狙い。

3月に社長を交代することを決意した。コロナによる環境変化に対応するというよりも、事業の大きな転換期にあるかどうかで、新経営体制に移るか、どうかで判断した。マーケットは全世界であるが、国内に目を向けないということではない。

世界の戦略、様々な異文化、考え方を日本にローカライズして生活や顧客企業にプラスになるようにしていくことと考える。

トップは常に、どんな環境にあっても、立ち止まってはいけない。前向きに半歩でも、一歩でも踏み出さなければならない。

生活必需品から
生活必”潤”品へ